

トキ保護増殖事業計画新旧対照表

(傍線の部分は変更部分)

新	旧
<p data-bbox="450 389 869 419">トキ保護増殖事業計画（変更案）</p> <p data-bbox="927 485 1077 612">農林水産省 国土交通省 環境省</p> <p data-bbox="226 678 461 708">第1 事業の目標</p> <p data-bbox="253 726 1106 1238">トキは、我が国ではかつて全国各地に広く生息していたが、明治時代以降、<u>生息数の減少及び生息域の縮小が急速に進んだため、本種を保護するための取組が行われたものの、平成15年に日本産の最後の1羽が死亡した。</u>一方で、平成11年以降、中華人民共和国（以下「中国」という。）から提供された個体の飼育下での繁殖が順調に進んだこと、<u>新潟県佐渡島において関係者が連携・協力して本種の再導入を行うための生息環境の保全・再生及び社会環境の整備を進めたことから、平成20年に佐渡島で本種の再導入を開始した。平成24年以降、継続的に野生下での繁殖が成功しており、令和3年3月現在、本種の個体数は野生下で推定約430羽、飼育下で約170羽まで回復している。</u></p> <p data-bbox="253 1256 1106 1334">また、国外においては、<u>中国では、昭和56年に7羽の本種の生息が確認されて以来、同国における生息地等の保護及び飼育下で</u></p>	<p data-bbox="1429 389 1713 419">トキ保護増殖事業計画</p> <p data-bbox="1823 485 1973 612">農林水産省 国土交通省 環境省</p> <p data-bbox="1133 678 1368 708">第1 事業の目標</p> <p data-bbox="1160 726 2013 999">トキは、我が国ではかつて全国各地に広く生息していたが、明治時代以降、<u>生息数及び生息域が急速に減少し、一時は1羽が飼育されるのみとなったが、平成11年以降、中華人民共和国（以下「中国」という。）から提供された個体の飼育下での繁殖が順調に進んだ結果、平成15年12月現在、本種の個体数は39羽まで回復している。</u></p> <p data-bbox="1160 1256 2013 1334">また、国外においては、昭和56年に<u>中国で7羽の本種の生息が確認されて以来、同国における生息地等の保護及び飼育下で</u></p>

の繁殖技術の向上により、本種の個体数は飼育及び野生合わせて約 4,400 羽にまで回復している。大韓民国では、平成 20 年に中国から提供された個体の飼育下での繁殖が順調に進み、令和元年に再導入が開始されている。

このように、飼育下での繁殖技術の確立、野生下での繁殖成功等により本種の個体数は回復しているものの、本種は依然として国際的にも絶滅のおそれの大きな鳥類の一つとされている。

本事業は、遺伝的多様性の確保に配慮しつつ本種の飼育下での繁殖を進め、飼育個体群を適切に維持するとともに、かつて本種の生息地であった新潟県佐渡島をはじめとした複数の地域において本種の生息に適した環境を整えた上で再導入を図り、本種が自然状態で安定的に存続できるようにすることを目標とする。

なお、本事業における目標を達成するための具体的な指標等については、別途、下位の計画に定めることとする。

第 2 事業の区域

全国（主として新潟県佐渡島及び第 3 の取組を行う地域）

第 3 事業の内容

1 個体の繁殖及び飼育

飼育個体群を適切に維持するため、佐渡トキ保護センター及

繁殖技術の向上により、本種の個体数は飼育及び野生合わせて約 560 羽にまで回復している。

このように、飼育下での繁殖技術の確立等により本種の個体数は回復基調にあるものの、我が国には野生個体は存在せず、中国においても約半数は飼育下にあり、本種は依然として国際的にも絶滅のおそれの大きな鳥類の一つとされている。

本事業は、遺伝的な多様性の確保に配慮しつつ本種の飼育下での繁殖を進め、飼育個体群の充実を図るとともに、かつて本種の生息地であった新潟県佐渡島において本種の生息に適した環境を整えた上で再導入を図り、本種が自然状態で安定的に存続できるようにすることを目標とする。

第 2 事業の区域

新潟県佐渡島及び第 3 の 4 の検討結果を踏まえて飼育個体の分散を行う区域

第 3 事業の内容

1 個体の繁殖及び飼育

飼育個体群の充実を図るため、佐渡トキ保護センター等の本

び分散飼育施設において、遺伝的多様性の確保に配慮しつつ計画的に繁殖及び飼育を進める。

また、国外を含む本種の保護増殖の推進に資するため、飼育を通じ、本種の生理、生態、疾病、遺伝子、血統管理等に関する情報を収集し、記録する。

なお、飼育個体群の適切な維持及び下記5による放鳥に適さない個体については、分散飼育施設等における普及啓発等、その活用方法について検討する。

2 生息状況等の把握

野生下の個体の行動、生息環境等を調査するとともに、その結果をその後の生息環境の保全・再生及び野生順化訓練に反映させ、野生復帰に関する技術の向上を図る。

3 生息環境の保全・再生

本種が自然状態で安定して存続するためには、営巣木として利用されるスギ、マツ（アカマツ、クロマツ）、スダジイ等の大木や餌となる生物を含めた本種を取り巻く生態系全体を良好な状態に保つことが必要である。

このため、本種の生息地や野生復帰の取組を行う地域を中心に、関係地域の住民の十分な理解を得つつ、関係地方公共団体、関係民間団体等と連携・協力して河川、湿地、水田、農業用水路、営巣木、ねぐら木等の本種及び本種の餌となる生物の生息

種の飼育繁殖施設において、遺伝的な多様性の確保に配慮しつつ繁殖を進める。

また、国外を含む本種の保護対策の推進に資するため、飼育を通じ、本種の生理、生態、血統管理等に関する情報を収集し、及び記録する。

(新設)

2 生息環境の整備

本種が自然状態で安定して存続するためには、営巣木として利用されるアカマツ、コナラ等の大木や餌となる生物を含めた本種を取り巻く生態系全体を良好な状態に保つことが必要である。

このため、我が国における本種の過去の生息環境や中国における生息環境等に関する情報を踏まえ、再導入を行う小佐渡東部地域を中心に、関係地域の住民の十分な理解を得つつ、河川、湿地、水田、水路、営巣木、ねぐら木等の本種及び本種の餌と

環境の保全・再生を進める。

また、過去に佐渡島に導入されたテン等の捕食者は、本種の生息に影響を及ぼすおそれがあることから、本種の安全を確保するために必要な対策を検討、実施する。

さらに、本種の生息地や野生復帰の取組を行う地域における土地利用や事業活動の実施に際して、本種の生息に必要な環境条件を確保するため、その実施主体により配慮がなされるよう努める。

4 普及啓発等による社会環境の整備

本事業を実効あるものとするためには、関係地方公共団体、各種事業活動を行う事業者、関係地域の住民を始めとする国民等の理解と協力が不可欠である。このため、本種の保護の必要性、本事業の実施状況等に関する普及啓発等を進め、本種の保護に対する配慮と協力を働きかけるとともに、人とトキが共生できる社会環境づくりを進める。

また、国、関係地方公共団体、関係民間団体等は、関係地域

なる生物の生息環境の保全及び再生を進める。特に、中山間地域の水田等については、本種の生息に必要な採餌地として重要であるため、その保全及び再生を進める。

なお、冬期等における餌資源の不足に備え、関係者による給餌体制の構築及び給餌地等の整備を検討する。

また、過去に佐渡島に導入されたテン等は、捕食者として本種の生息に影響を及ぼすおそれがあることから、その生態及び本種に対する影響を調査し、テン等の捕獲を始めとするねぐら等における本種の安全を確保するために必要な対策を検討する。

さらに、本種の再導入予定地における土地利用や事業活動の実施に際して、本種の生息に必要な環境を確保するための配慮が払われるよう努める。

(新設)

において本種の保護についての理解を深めるための取組を行うこと等により、地域の自主的な保護活動の展開が図られるよう努める。

5 放鳥の実施

上記3による生息環境の保全・再生を図り、上記4により関係機関及び関係地域の住民の十分な理解を得つつ、飼育個体を放鳥することにより、本種の複数の地域個体群の確立を図る。

この際、野生個体群が自然状態で安定的に存続できるよう、放鳥個体の選定に当たって、野生個体群の遺伝的多様性の確保に留意するとともに、事前に野生順化訓練を行う。

(削除・1に統合)

3 再導入の実施

かつての本種の生息地である小佐渡東部を中心とする地域において、上記2による生息環境の整備を図り、また、上記1による飼育個体群の維持についてのめどが立った段階で、関係地域の住民の十分な理解を得つつ、飼育個体を再導入することにより、本種の野生個体群の回復を図る。

この際、再導入個体が自然状態で自立して生存できるよう、再導入個体の選定に当たって、健康状態及び血縁関係に留意するとともに、事前に野生順化の取組を行う。

また、再導入した個体の行動、生息環境等を継続的に調査するとともに、その結果をその後の生息環境の整備及び野生順化の取組に反映させ、再導入に関する技術の向上を図る。

4 飼育個体の分散

本種の繁殖及び飼育は、当面佐渡島において実施することとするが、本種の安定的存続を図るため、同島以外の地域における適切な施設への飼育個体の分散を検討し、検討結果を踏まえて分散を進める。

6 中国等との国際的な相互協力の推進

国内外にわたる本種の保護対策の充実強化に資するため、本事業により得られた知見をいかして、本種の繁殖及び飼育並びに野生復帰に関する技術の相互発展のための協力を進める。

また、我が国における本種の個体群の遺伝的多様性を確保するため、「日中共同トキ保護計画」に基づく中国との繁殖協力等を積極的に進める。

7 その他

(1) 組織、生殖細胞等の保存

本種の組織、生殖細胞及びDNAは、遺伝学的な解析及び将来の保護増殖に利用することが期待されるため、これらを良好な状態で保存する。

(削除)

(削除・4に移動)

5 中国との相互協力の推進

我が国における本種の個体群の遺伝的多様性を確保するため、「日中共同トキ保護計画」に基づく中国との繁殖協力等を積極的に進める。

また、本事業により得られた知見をいかして、中国における本種の繁殖及び飼育並びに再導入技術の確立のための協力を進め、国内外にわたる本種の保護対策の充実強化に資する。

6 その他

(1) 生殖細胞等の保存

本種の組織、生殖細胞及び遺伝子は、将来の保護増殖に利用することが期待されるため、これらを良好な状態で保存するため、その手法を検討するとともに、関係者による保存体制の整備を進める。

(2) 再導入に関する技術の研究及び開発

本種の飼育個体に係る野生順化等の技術を確立するため、国内外の類似例の調査及び研究を進めるとともに、必要に応じて近縁種を用いた同技術の研究及び開発を進める。

(3) 普及啓発等の推進

本事業を実効あるものとするためには、関係地方公共団体、各種事業活動を行う事業者、関係地域の住民を始めとす

(2) 効果的な事業の推進

本事業の実施に当たっては、国、関係地方公共団体、本種の生態等に関する専門的知識を有する者、本種の保護活動に参画する関係民間団体、地域の住民等の関係者間の連携・協力を図り、効果的に事業が実施されるよう努める。

る国民等の理解と協力が不可欠である。このため、本種の保護の必要性及び本事業の実施状況等に関する普及啓発等を進め、本種の保護に対する配慮と協力を働きかける。また、国、関係地方公共団体、関係民間団体等は、関係地域において本種の保護についての理解を深めるための取組を行うこと等により、地域の自主的な保護活動の展開が図られるよう努める。

(4) 効果的な事業の推進

本事業の実施に当たっては、国、関係地方公共団体、本種の生態等に関する専門的知識を有する者、本種の保護活動に参画する民間団体、地域の住民等の関係者間の連携を図り、効果的に事業が実施されるよう努める。